

※ 内容が変更になる場合がございます。
※ 開講曜日・時限が変更になる場合がございます。

《 スポーツ健康学部 》

■運動生理学概論 春学期 月曜1限

運動生理学は生理学の一分野として、ヒトが運動を行った際の身体の機能及び適応能力を系統的に究明し、その法則性を学習するものである。具体的には、骨格、筋、循環、呼吸、神経系等の関わり合い、そして、それぞれの組織の変化と適応のメカニズムを科学的に理解し、運動時に身体がどのように機能しているかを学習する。

■運動生活環境論 秋学期 月曜1限

ヒトのパフォーマンスは、その環境において大きく左右される。メキシコのような高地での競技、アフリカや中米における高温環境や多湿環境における競技など、それらの状況下での競技能力は予測が困難である。また、マラソンのような持久走においては、高所などの低圧・低酸素環境下でのトレーニングは常識となっている。それらの環境の背景にあるメカニズムを科学的に学習する。

■医療の歴史 秋学期 月曜1限

人間の歴史は、また病気との戦いの歴史でもあった。現代の医学からみればとるに足らない方法であっても、その時代の人たちはそれなりの方法で病気や死と向かい合ってきた。国家や政府はどのような医療制度や政策を行ったのか、医療従事者たちはどのような思想や技術で治療に当たったのか、また人々は病気や死とどのように闘いそして受けとめてきたのか、振り返っていくことにする。

■スポーツ生化学 春学期 月曜2限

身体の運動時における生体の変化を生化学的側面から学習する。運動時に、筋組織においては嫌氣的代謝が亢進していたり、逆に好氣的代謝が優勢であったりする。それらの状況においてエネルギー源となる糖や脂肪酸及びたんぱく質がどのように代謝されATP産生に関わっているか、さらにスポーツの種目の違いやそれぞれの競技中での変化とパフォーマンスへの影響などを学ぶ。

■地域生態論 秋学期 月曜4限

自然、人間社会、文化構造など多くの条件によって多義的に表現される地域概念を、自然とりわけ生物社会のありようと人間の具体的な生活との関係として捉え、人間活動の基盤としての自然の重要性を理解させる。具体的な事例として日本の里山環境、アマゾン熱帯林における自然共生型の生活、中国の辺境に暮らす少数民族の文化と自然観などを取り上げ、現地から得た資料や映像を駆使して実感のともなう地域学習を展開する。

■心身関係論 秋学期 火曜1限

心と身体の関係は素朴な感覚の問題として見る限り、ただ具体的な相関関係を知れば充分と思われるかもしれませんが、しかし、その「関係そのもの」を理論的に考えようとすると、解きがたい難問にぶつかります。その意味において、心の存在は（したがって心身関係は）人類最大の謎なのです。心についての近世以降の哲学の歴史はその難問に答えようと苦闘した歴史とも言えます。この授業の前半では、心身関係の具体的事例を考察する「前の」、そこにある理論的な問題を《哲学的に》考えていきます。心身のとらえ方がむしろもの見方に依拠していること

■日本文化史 秋学期 火曜1限

日本の文化の歴史のなかで、とくに興味を引く点について解説をしたいと思います。高校時代の日本史で文化というと、仏像や文学作品の名前を覚えることだったはずですが、この講義でいう文化とは、もう少し広い範囲で考えて「日本人の営み」といった意味で考えています。私たちは日本人として、このような文化を引き継ぎ、そして次の世代へ渡していく役割を担っています。あまり難しく考えずに、「文化」を考えてみませんか？

※ 内容が変更になる場合がございます。
※ 開講曜日・時限が変更になる場合がございます。

■保健統計 秋学期 火曜1限

健康については、疫学的調査により様々なデータが公表されている。国民の健康状態や疾病、出生や死についての幅広い資料を統計学的観点から理解し、それらのデータの中に潜む事象を客観的に把握する能力をつける。また、客観的に統計データを把握するために必要な統計の基礎知識及び、実験結果や調査結果から得たデータの統計処理方法についても学習する。

■哲学 春学期 火曜2限

主に始めて哲学を学ぶひとのために哲学の諸問題と基礎知識を説明します。具体的には、「哲学とは何か」、「形而上学とは何か」、「個と普遍の問題」、「科学とは何か」という4つのテーマにそれぞれ代表的な哲学者の意見の紹介を交えながら説明します。私たちは日々、様々なものを見聞きし、それについて考え、判断し、その結果に基づいて行動しているわけですが、特に重大な決断の場合は別として、「そうしている」という意識もなしに「そうしている」と思います。私たちの日常は、ほぼ完全にパターン化されており、そうであるからこそ

■測定評価 秋学期 火曜2限

体力の測定においては、身長、体重に代表される身体等の形態測定、持久力、筋力などの体力測定、血液成分から機能測定など様々な測定項目を対象とする。トレーニング前のこれらの測定値を初期値とし、トレーニングメニューを決め、実施する。そしてトレーニング期間終了後においてその効果を計量的に評価することが求められる。本講義では、①種々の体力測定法の解説および実習、②体育・健康・スポーツ科学に関するテストの作成法の理解、③体育・健康・スポーツ科学に関するデータを計量的に分析評価するための統計的方法の習得を行う。

■宗教社会学 秋学期 火曜2限

ゲオルク・ジンメルは社会学の創設者のひとりであり、生の哲学者としても知られています。ジンメルは宗教をどのようにとらえたのだろうか。かれの宗教観をわかりやすく解説するとともに、21世紀における宗教のあり方をさぐっていきます。社会科学の巨匠として知られるマックス・ウェーバーの宗教社会学的な研究を中心としながら、宗教と経済の関係にせまっていきます。ウェーバーの有名な命題、すなわち近代資本主義の精神的エネルギーとなった「(近代)資本主義の精神」、つまり「資本主義的エートス」が、プロテスタンティズムの現世的禁欲に由来するという命題をとり上げ、それをさらに歴史社会学的に展開していきます。

■哲学史 秋学期 火曜2限

哲学を学ぶことは単に「哲学史の知識を知る」ことではないのですが、「哲学する」ことを学ぶには、哲学史上の知識は必要です。この授業では、中世以降の西洋哲学史の流れに即し、各時代の主要な哲学者、著作、そこでの主な問題、使われている諸概念等をできるだけ整理して紹介します。とりわけ、各時代に特徴的な問題については、現代的に問い直して紹介したいと思います。そこでの主要な問題は「宗教的なものの見方」と「科学的なもの見方」です。それぞれ、私たちの世界の見方、人間の捉え方の一つです。その考察を通じて、自分で考える訓練

■社会学 春学期 火曜3限

本講義のねらいは、社会学の基礎知識と理論を学ぶことによって、社会的な思考方法を身につけてもらうところにあります。前半では、著名な社会学者たちをとり上げながら、具体的な事例をもとにして、社会的行為、社会関係、家族、集団と組織、地域社会などの、社会学の基礎知識をわかりやすく説明していきます。後半では、社会学の巨匠として知られるドイツの社会学者ゲオルク・ジンメルの社会学的な理論を紹介します。かれの理論をもとにすれば、現代社会のさまざまな局面が解説できることを知ってほしいとおもいます。

※ 内容が変更になる場合がございます。
※ 開講曜日・時限が変更になる場合がございます。

■人間社会論 秋学期 火曜3限

本講義では、人間にとって「社会」とは何かという基本的な問題からはじめて、人間が作り出した「貨幣」「宗教」「IT」などが社会にたいしてもっているプラス面とマイナス面を社会的に検討することによって、現代社会の根本的な意味を改めて問い直していきます。また、人間の命が軽視されがちな現代社会において、「生」とは何かというもっとも重要な問題についても考察したいとおもいます。

■発育・発達・老化論 春学期 水曜1限

人間の体や機能は青年期にかけて著しく発達し、その後、加齢と共に徐々に低下していく。成長期において、神経系機能は比較的早期に発達、その後、身長や体重が増加し、充実した体格となる。成長の度合いとの関係で、トレーニングする適切な時期があり、そのタイミングを間違えると成長に影響がでる。また、遺伝的な要因もトレーニングに影響を与える。トレーニングにより獲得された有酸素性作業能力や無酸素性作業能力も成長、加齢の中で変化していく。本講義では、一生を通しての体力、体格、機能の変化について学習する。

■高齢者運動スポーツ論 秋学期 水曜1限

日本人口に占める高齢者の割合が増加する状況の中でいかに健やかに年を重ねるかが大きな課題となっている。加齢の中で老化現象を遅らせるために運動は良い影響を持つことは明白である。高齢者の運動に取り組む上で必要となる高齢者の体力や特性に関する知識、そして運動に対する適性やその運動と強度、その際の留意点等を学習する。

■スポーツ心理学 秋学期 水曜1限

競技スポーツの心理学では、主にコーチと選手を中心に、メンタル・トレーニングの理論と方法について学ぶ。これまでの大学準硬式野球の監督・部長の経験、さらには東海地区大学準硬式野球連盟会長の経験を背景に、心理学からの知見を併せて、特に動機づけと自己意識との関係を解説し、学習者自身の競技生活に参考とするのみならず、学校での部活動の指導法についても解説する。また、健康のためのスポーツ活動において必要な知識について理解を深め、実践場面への介入法・指導法についても講義する。

■社会福祉原論1 春学期 水曜2限

現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。福祉制度の理念と意義について説明し、倫理および哲学を学習する。日本および諸外国における福祉制度の発展過程を示し、社会福祉の動向や課題について認識できるようにする。具体的には、次の理解を深めることができるようにする。・社会福祉の倫理と哲学について理解する。・福祉政策におけるニーズと資源について理解する。・福祉政策の課題について理解する。・福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。）について理解する

■人間関係論 春学期 水曜2限

「人間関係」は2人や3人の間だけに生ずる関係のような狭い概念ではない。この概念には、一人の心の中にある人間関係から、家族、友だち、学級、集団、社会等と、人間が関わる様々な関係を包括する広い概念である。この授業では、親子関係から、国際関係に置ける人間関係を中心に、人間科学的に理解し、これからの人間関係のあり方まで考えてみる。

■社会福祉原論2 秋学期 水曜2限

現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。福祉制度の理念と意義について説明し、倫理および哲学を学習する。日本および諸外国における福祉制度の発展過程を示し、社会福祉の動向や課題について認識できるようにする。具体的には、次の理解を深めることができるようにする。・社会福祉の倫理と哲学について理解する。・福祉政策におけるニーズと資源について理解する。・福祉政策の課題について理解する。・福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。）について理解する。

※ 内容が変更になる場合がございます。
※ 開講曜日・時限が変更になる場合がございます。

■健康管理論 秋学期 木曜1限

健康であることの意味と健康管理の大切さを学ぶとともに自己管理により健康の保持・増進ができるようその基礎を学習する。具体的には、自己の体調の良し悪しや体重の変化、風邪を引きやすいとか食欲が無いなどの兆候を認識し、その原因について考え、改善する能力を身につける。さらに健康を取り巻く生活環境や生活習慣病に関する知識、そしてその予防・改善やメディカルチェックについて学習する。

■社会福祉援助技術論1 通年 木曜2限

本講義は、社会福祉の援助とは何かと考え、社会福祉援助技術の理念や専門性について概説する。次に社会福祉援助技術の基盤となっている視点（特にジェネラルストの視点の理解）、価値・倫理や知識について学ぶ。そして、実践分野における支援のあり方、支援の面接技術、評価技術を学習する。

■スポーツ科学概論 秋学期 木曜2限

オリンピックの年は特にスポーツが話題となり、特に世界記録などに話題が集中する。北島康祐選手の100m・200mの平泳ぎの記録やウサイン・ボルト選手の男子陸上100mの記録が特に注目された。こうしたヒトのパフォーマンスの影にどんななぞが隠されているか。それらのなぞを解析するとともに、スポーツの面白さ、不思議を科学的な視点から理解する。

■心理療法概論 春学期 木曜2限

心理療法とは、「個人の内的葛藤や悩みを解決できるように援助すること」に留まらず、「個人の人格的成長に対する障害が起きた時、人格の最大限の発達を成し遂げることができるように援助すること」までその概念が広がってきており、その方法論においては各学派によって様々な理論と技法が提唱されている。本講義では、数々の心理療法の方法論の中から代表的なものを選び、その理論的背景や実際の適用例について紹介する。

■体力トレーニング論 秋学期 木曜2限

健康の維持・増進や体力の向上を目的として、トレーニングを行う。その実施には目的に応じたトレーニング方法とその際の強度、頻度、持続時間を適切に判定し、効率良く実施することが肝要である。本講義では、体力の概念と体力領域の学習に始まり、体力に応じたトレーニング手段を的確に判断するための基礎知識とトレーニングプログラム作成についての基本、さらにはコンディショニング（体調管理）の基礎理論についても学習する。また、その効果の測定・評価方法についても学習する。

■高齢者福祉論1 春学期 木曜3限

この講義では、少子高齢人口減少社会に生きる一市民がもつべき基礎的な教養として、高齢者福祉の社会的背景について概観するとともに、現代社会における高齢者福祉の理念と意義について学習します。その際、高齢者福祉分野で必要な基礎的知識を修得するだけではなく、介護保険法や社会福祉基礎構造改革といった動きを視野に入れて検討します。具体的には、介護保険法成立によって再編されることになった高齢者保健福祉サービスについて、事例を取り上げながら授業を進めていきます。さらには、高齢者福祉及び関連分野の専門職との連携のあり方等

■健康心理学 春学期 木曜3限

適度な運動は健康に良いことは誰でも知っている。ところが、定期的な運動を生活に取り入れている人は少ない。このことは、健康に関する知識を持つこととそれを実践するということが別問題であることを示す。よって、如何に健康行動を人々に実践してもらうかということは、疾病の予防や健康の維持・推進においてとても重要なポイントとなる。健康心理学は、人間の健康を取り巻く諸問題を総合的に研究する心理学あるいは行動科学 (behavior sciences) として定義できる。本講義では、健康心理学に関する様々な基礎知識を紹介するとともに、疾病の予防や健康の維持・推進における心理学的立場からの科学的・教育的・専門的貢献について解説する。

※ 内容が変更になる場合がございます。
※ 開講曜日・時限が変更になる場合がございます。

■健康運動教育論 秋学期 木曜3限

健康教育の目的は疾病予防や健康の維持・増進のための知識を伝えるだけでなく、実際に健康行動が実施できる、すなわち「行動変容」を定着させることにある。さらに、健康改善を目指す対象者が、その後、豊かな人生を送っていくための支援をすることも重要な目的である。本講義では、受講者が以後、様々な対象者に対して健康教育を行うにあたり必要とされる、「健康のとらえ方」、「健康に対する価値観」、「ヘルスプロモーションのこれまでの動向と今後の展望」、「行動変容のサポート方法」、「健康教育の計画・評価方法」などについて学ぶ。本講義

■認知心理学 秋学期 木曜3限

認知心理学とは、「人間の認知機能について、情報処理パラダイムを使用して研究する学問」である。認知心理学は現代心理学を支える基底領域であり、そこで得られた研究知見は、社会心理学や臨床心理学、発達心理学などの応用領域で広く利用されている。この講義では知覚、記憶、言語、思考などの認知心理学のトピックスを簡単に概説する。授業の中では簡単な実験の供覧も行う予定である。さらにこれらの基礎的知見が臨床などの実践にどのように関わっているかといった点についても折々に触れるつもりである

■児童福祉論1 春学期 木曜4限

現在、児童虐待、養育拒否、不登校、非行の低年齢化、イジメ、親の養育態度における過保護・過干渉などで、児童の権利が脅かされている。このような児童の生活実態を取り上げながら、児童の人権尊重の視点に立った児童福祉の理念と意義、児童の福祉需要の把握方法や児童福祉法、次世代育成支援対策推進法等児童福祉関連法とサービスの体系について学ぶ。

■児童福祉論2 秋学期 木曜4限

児童の権利擁護の視点に立った児童の福祉需要の把握方法や児童福祉法、次世代育成支援対策推進法等児童福祉関連法とサービスの体系について学ぶ。また、支援の必要な児童に対する支援課題について学ぶ。

■キリスト教概説 春学期 金曜1限

建学の精神として本学の教育を基礎づけるキリスト教の精神を学ぶ。すなわち、聖書の示す人間観、世界観を学び、「人間とは何か」そして「人間がこの世界にあっていかに真実の生を生きるのか」という問題について考察する。とりわけ、それをもっとも明確な形で示したイエス・キリストの言葉と行為に触れ、限界をもった人間が、人として常に新しく生かされる可能性を与えられていることを知り、それが希望と力に満ちた生を生み出すことを理解する。

■運動障害と予防 春学期 金曜1限

スライド使用による講義、教科書以外のことを教えます。

■キリスト教学 秋学期 金曜1限

私たちは現在、閉塞感に苛まれている。中々、日常生活の中で、喜びや幸せを心一杯味わいたくても、味わえない現実におかれている。心を開いて、他者と豊かに交わりたくても、交われないのではないかとの不安。勇気を持って正しいことを発言し、行動したくても、それが圧殺されるのではないかとの恐れ。周りには、「いじめ」「差別」「監視」などが幾つもある。生命は尊く、一人ひとりの存在は大事にされなければならないと言われても、現実はその逆ではないかと思わせる事態が存在する。自然も人間もこうした過酷な環境のもとで日々を過ごしている。

※ 内容が変更になる場合がございます。
※ 開講曜日・時限が変更になる場合がございます。

■キリスト教概説 春学期 金曜 2限

建学の精神として本学の教育を基礎づけるキリスト教の精神を学ぶ。すなわち、聖書の示す人間観、世界観を学び、「人間とは何か」そして「人間がこの世界にあっていかに真実の生を生きるのか」という問題について考察する。とりわけ、それをもっとも明確な形で示したイエス・キリストの言葉と行為に触れ、限界をもった人間が、人として常に新しく生かされる可能性を与えられていることを知り、それが希望と力に満ちた生を生み出すことを理解する。

■キリスト教教学 秋学期 金曜 2限

〈キリスト教平和学〉キリスト教の視点から「平和」をめぐる諸問題について分析し、平和構築にむけて私たちの出来る事を探るのが私のキリスト教教学のテーマである。キリスト教をはじめとした宗教がどのように戦争に関わってきたのか。そして、紛争の解決や紛争後の和解のプロセスについて何をしてきたのか。今後どのような貢献が可能なのか。こういったことを批判的に検討する。学生諸君には、この過程で自分が平和構築のために何ができるのかを考えていただきたい。キリスト教を基礎にした平和理論・紛争処理の研究はほとんど未開拓なのが現状である。

■心理学概論 秋学期 金曜 2限

心と行動を研究の対象とする心理学を講義する。その研究の範囲はとても広いので、基礎的な部分を中心に講義を展開する。どんな領域においても人間と無関係に生きることはあり得ないので、基礎的な部分から自発的に学習する姿勢を喚起する。

■比較生態行動論 秋学期 金曜 2限

人間もまた生物種のひとつである。その行動発達を考える上で重要な生物学的情報として、霊長類の初期発達とくに母子関係の変容過程や個性の発達にもなう社会的成熟過程、さらに野生霊長類に認められる環境適応と種毎の社会構造形成との関係や地域差などを紹介し、人間行動の生物的背景を考える。

■青年期の心理と教育 春学期 金曜 3限

青年期は、第二性徴が顕著になり、独立した成人になるまでの時期をさす概念であるが、身体的成熟が早まっていることや晩婚化などによりその期間は段々長くなっている。この時期は急激な身体的変化を自らが受け容れることのほか、変化する自分が周囲にどのように映っているかなどに注意が集中しやすく、同時に進学に伴う様々な課題にも適応していかなければならない。よって、青年期は人格的な未熟さから様々な心理・社会的トラブルも発生しやすい時期でもある。本講義では、学校段階別の青年の心的特徴とそれに絡んで発生しやすい様々な心的トラブルと学校不適応の様相について概観し、それに対する教師の姿勢と対処法、教師と専門スタッフ間の連携のあり方を様々な事例に基づいて学習する。

■キリスト教人間学 秋学期 金曜 4限

ニヒリズムが蔓延し、倫理や道徳が力を失う、この現代に生きる私たちは日々の生活の中に不安や空虚をひそませて暮している。こうした生の喪失感を内にかかえ、生きる目標を見出しにくい状況下で、私たちは知らず知らずに、自らを尊び、他者を思いやりたいと願う。今を悔いるだけでなく、希望をもって明日へと歩みだしたいと望む。本講はこうした希求に心を寄せつつ、キリストの言葉が記された聖書、苦悩や絶望の中にあっても、喜びをもって懸命に生きようとする人々の作品を通して人間の生きる意義を考えてみたい。